

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

事業所名 児童デイサービス童子(わらび)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			活発な子、身体障害児の活動スペースを分け配慮している。	限られた空間を、児童一人ひとりの状態、成長に合わせて改善を続けて行く。
	2	職員の配置数は適切である	○			実習・ボランティア経験のある方をバイト生としている。	一緒に遊んだり、勉強を教えることのできる、優秀な若い人材を増やしたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			けが防止の為マットを敷き詰めている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			週ミーティング、月会議を開催し、職員全員で共有・参加するようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		保護者個別で意向を把握し、対応・改善に努めている。	送迎時や電話など直接話をする機会が多いため、アンケートなどの書面での調査は行っていなかった。今後定期的に行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				3月中に公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○				
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			法人研修や外部の研修等の機会を確保。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		発達の状態シートを使い、アセスメント、状況把握を行っている。	児童の認識度、理解度を把握するための基準となるツールを作成していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			ミーティング、会議を開催し、チームで立案、計画を立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童の状態・成長に合わせて見直しをしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日、長期休み共個別に課題・目標設定し、活動案を立てている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			配置表を作成し、スタッフの動き、支援内容、役割がわかるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			利用児童の支援記録を当日中に入力することを徹底している。	必要な児童においては、個別のシートを作りデータ取りを行なう。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必ず児童発達支援管理者が参加。必要な時は担当者も参加している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		必要があれば、その都度学校・保護者に確認を取っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在、医療的ケアの必要な児童が在籍していない。	今後、医療的ケアの必要な児童受入れ時は、連絡体制を整える。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		受入れ前に担当者会議で情報共有を行ない、連携している。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		担当者会議などで口頭・書類を持って情報提供を行なっている。移行後も必要に応じて訪問などを行なっている。		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	研修開催時のみ受けている。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	特に交流会等は持っていないが、地域の児童館を利用することがある。		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳、電話等、共通理解に努めている。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	児童発達支援管理責任者が3月にペアレント・トレーニング講習を受講し、保護者個別での面談時に活用していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行なっている。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		出来る限り、力になれるよう努力している。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	保護者に皆さんに仕事、育児、介護、本人の療養などの諸事情があり、保護者会等一堂に会する機会を作ることが難しいため、開催していない。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している			○	法人季刊誌年2回、児童デイ季刊誌(夏季、冬季)	4月より「わらびっこ通信」誌を毎月発行する。
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			法人全体で年2回避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			法人全体で権利擁護研修を定期的に行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束はいかなる場合も行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成29年3月1日

事業所名 児童デイサービス童子(わらび) 保護者等数(児童数)10名 収数 6 割合 60%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか		○		・スペースは広いとはいえない。明るさが少ない。 ・園庭が無い。	・スペースの使い方の工夫を精めます。 ・公園等外での活動の機会を多くします。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	○				
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○				
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	○			・子供、親の気持ちに沿った分かりやすい計画書だと思う。	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	○			・長期休み等、普段つれて行けない場所や活動があり、助かっている。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○			・地域の児童館で遊ぶ機会を増やして行く。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	○			・送迎時や連絡帳でその日に伝えてくれるので、共通理解できていると感じる。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	○			・兄弟の事も相談に乗ってもらったりしている。	・保護者の気持ちの負担が軽くなるような支援を今後も続けて行く。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			○	・保護者会などは多忙な為、参加がむづかしい。	
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				・子供や保護者からの苦情が伝えやすい体制を作り、迅速・適切に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	○				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか			○	・子どもの通信誌があるといいな。	・4月から「わらびっこ通信」を発行する。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	○				
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	○				
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○				
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	○			・行くことを楽しみにしている。 ・休みの日も行きたいと言っている。	・今後も児童・保護者にとって安心できる場所として努力を続けて行く。
	18 事業所の支援に満足しているか	○				

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。